

香気が高く、水色の良好な
山間地向きの晩生品種。

おくひかり



晩生品種で、耐寒性と炭そ病に強く、品質面では濃緑な色沢と極めて優れた水色、更には濃厚で個性的な香気をもつものです。これらの特性を活かし、産地のブランド商品として、普及に取り組んでいます。

品種の来歴と特徴

静岡県茶業試験場で、昭和39年に「やぶきた」と中国種「静Cソ225」の交雑から選抜され、昭和60年度に育成されました。やぶきたより5〜6日遅い晩生種であり樹姿は直立型で、樹勢は強い方です。耐寒性は、赤枯れや、裂傷型凍害には「やぶきた」より強く、晩生種のため、霜害を回避しやすいものです。耐病性の炭そ病、輪斑病、もち病には強いが、赤焼病と赤葉枯病には弱いものです。

品質の特性

外觀の形状は、剣のちた堅く締まった茶になりやすく、色沢は濃緑で冴えた光沢があります。香気は、「やぶきた」とは異なった香りを持ち、水色は明るく、きわめて良好です。滋味は、ソフトですが、やや渋味を感じ、清涼感があります。山間地で栽培されたものでは、渋味は緩和されます。

栽培上の注意点

樹姿は「やぶきた」よりもさらに直立性で、芽数が少なく、芽重型傾向が強いため、株張りを広げるように仕立てるとともに、芽数を多くするような整剪枝が必要です。赤焼け病に

はきわめて弱いため、幼木期や自然仕立て園では、周到的な防除が必要です。

加工上の注意点

水色は、明るい緑色で、非常に優れています。その水色に比べ、渋味を感じ、商品化しにくい場合には、いづらか深蒸し傾向にするのがよいと思われます。

普及および栽培適地

中生の「やぶきた」と組み合わせ栽培するのに適しますが、耐寒性及び、炭そ病に強く、山間地では、色沢と香味が特に優れているため、普及地帯としては、特に山間地が適しています。

苗木の入手方法

種苗法登録品種であり、静岡県は県経済連と中川根町の二カ所と種苗許諾契約を結び、苗木生産を行っているため、両者からの苗木の入手が可能です。

命名の由来

「おくひかり」は、晩生種であること、葉が濃緑色で非常に光沢があるとともに、山間地向きの諸特性から、山間地茶業の光明となることを期待して命名されました。



品種名	育成年	種苗登録の有無	育成場所	来歴	
				やぶきた	静Cy 225
おくひかり	1987	有	静岡茶試	やぶきた	静Cy 225



早晩性	樹姿	樹勢	収量性	品質			耐寒性 (赤枯れ)	耐病性 (炭そ病)
				色沢	香気	滋味		
晩生	直立	やや強	中	上	上	上	強	強